

# YWVOB会 会報 No.33

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://hw001.gate01.com/hkanoh/index.htm>

2006年9月1日発行

## ～ 33号の目次 ～

- |                    |   |                    |    |
|--------------------|---|--------------------|----|
| ・2007年度OB総会のご案内    | 1 | ・期別便り(6期)          | 8  |
| ・OB会役員会報告(第2回 第3回) | 2 | ・故7期八島明氏を偲んで       | 10 |
| ・50周年記念事業に向けて      | 2 | ・自由投稿(縄文杉に会いに行く)   | 12 |
| ・第16回OB山行報告(檜洞丸)   | 6 | ・OB会費納入のお願い        | 14 |
| ・第17回OB山行案内(瑞牆山)   | 7 | ・OB会報の発送方法とOB会費未納者 | 14 |

## ■ 2007年度OB総会のご案内

会長 嘉納(1期)  
幹事長 石川(41期)

残暑の候、皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、2007年度のOB総会の開催日時・会場が以下の通りに決定しましたのでお知らせ申し上げます。

今年度の総会は皆様の思い出の地でもあり、またご参加しやすい横浜駅東口で、美味しい食事付きの会食形式にて行います。皆様お腹を空かせた状態でご参加するようお願い致します。また、これを機にさらに広い世代の部員の方々の交歓もしていただきたく思います。会員の皆様には是非奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 記

- [日 程] 2006年11月12日(日曜日) 15:00~17:30 (受付開始14:30より)  
[場 所] 横浜駅東口スカイビル(丸井などが入居するビル)27階クルーズ・クルーズ  
[参加費用] 5,000円  
[議 題] 各委員会の2006年度活動報告・決算報告、2007年度活動予定・予算について、  
新OBの承認、現役活動報告 他  
[連絡先] 石川 またはいずれかの役員まで

本総会への出欠のつきまはしては、同封の葉書にて9月30日までに返信下さい。なお、ご出席頂けない場合、総会の議決に関する委任の有無をご記入ください。

残暑厳しき折、会員の皆様のご自愛の程お祈り致します。

※ OB会のホームページをご存知ですか。是非一度ご覧ください。  
アドレスは次の通りです。

<http://hw001.gate01.com/hkanoh/index.htm>

## OB会役員会報告（第2回、第3回）

幹事長 石川 真（41期）

今年度の第2回、第3回役員会は、次のとおり実施いたしました。  
豪雪による小屋の雪下ろし補助について、来年開催予定の50周年記念事業などが中心的な議題となりました。今後も3ヶ月に一度のペースで開催する予定です。

	第2回 OB 会役員会	第3回 OB 会役員会
日 時	4月23日 14:00~17:00	7月29日 14:00~17:00
場 所	明治大学生田キャンパス	秋葉原ダイビル
出席者 (敬称略)	嘉納・石川・小野・吉野・池原（小屋委員長代理）下村・松本（真）	嘉納・石川・服部・小野・吉野・後藤・覚田・下村 50周年事業準備委員の皆様（谷上・吉村・鈴木・安藤）
主な議題 決定事項	○ 小屋報告 この冬の豪雪に対応いただいたOBへの雪下ろし補助制度について、小屋委員会よりの報告を受け、その制度を承認した。その他小屋を取り巻く現状（小屋の権利の問題・遊歩道の開墾等）について報告をいただいた。 ○ OB会報 次回33号についての内容・締め切りなどを確認した。	○ 50周年記念事業 50周年事業準備委員会での議事・決定事項を承認した。50周年記念式典は2007年11月10日にOB総会同時開催とすることが決定した。詳細は準備委員会報告を参照ください。 ○ 2007年度OB総会について 2006年11月12日（日）、横浜にて行なうことが決まりました。詳細は本会報OB総会案内をご確認ください。 ○ その他 任期中にお亡くなりになった八島監査役の後任として服部氏の監査役就任を承認した。任期は2006年度役員会（前任者の任期期限）までとする。 また、会報発行、YWV公式HPなどについて話し合いを行なった。

※ 次回の第4回OB会役員会は10月21日（土）に開催予定です。

## 創立50周年記念事業に向けて

50周年記念事業準備委員 嘉納（1期）

会員の皆様、アンケートにご協力ありがとうございました。アンケートには37名の方からご回答頂きました。

この結果に基づき、準備委員会と役員会合同で次のような記念事業計画案を作成しました。今後皆様のご意見を反映させてより良いものとしたく存じておりますので、どうか皆様ご覧の上ご意見をお寄せ下さい。ご意見、アンケートのご回答は下記宛にお願いします。

## 50周年記念事業計画案

### I. 50周年記念事業の趣旨

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部は1957年（昭和32年）4月に創設された。以来次第に部員数が増加し、数年を経ずして有数の大きな部に発展し活発な部活動を展開してきた。

1968年には創立10周年記念事業として苗名小屋が完成して、現役、OBがともに活動し、かつ憩い、おもいを共にする場として今日まで利用され続けている。部員数は最近少なくともはなかったが、現役部員は精力的に部活動を行っており、ワンダーフォーゲル活動はなおも健在である。現在のOBの数は500名を超え、かなりの数のOBは今なお山行活動を活発に行っている。

当部は2007年に創立50周年を迎える。この期に当たり、過去の活動の集大成を行い、つぎの50年の展望を開くために50周年記念事業を行う。事業の内容としては、式典の挙行、記念誌の発行、記念登山（国内・海外）の実行、歴史編纂のための資料収集と整理、公式ホームページ開設などを多くの会員の協力により遂行する。このために、創立50周年記念事業実行委員会を構成する。基本的には現在の役員および各期幹事に委員就任をお願いし、特徴のある事業とするために広く皆様のこの事業準備への参加を呼びかける。また、ボランティアとして参加する人も募る。

### II. 事業の内容

#### 1. 50周年式典、祝賀会および親睦会

開催日時：2007年11月10日（土）

開催場所：式典会場 ホテルビューフェ（横浜）または中華街

総 会：午前中 旧工学部校舎（弘明寺）で行う

式 典：OB 会会長、関西支部長、部長、各期、現役代表の挨拶

懇 親 会：乾杯、映像（50年の活動記録、山小屋の40年、シニア月例）

山の歌の合唱など飛び入りも歓迎

記 念 品：会員名簿、山行用アクセサリ、YWV50年の歩み（本、DVD）

#### 2. 部史編纂事業「YWV50年の歩み」

① 公式ワンダリングの記録（新人歓迎・新人錬成・新人合宿・リーダー養成合宿・夏合宿・PW・冬山合宿・スキー合宿など）

② 遭難問題

③ 山小屋活動

④ OB会活動

⑤ 他大学との連携

⑥ 各期のトピックスおよび会員の自分史を集約

⑦ YWV50年についての自由投稿

#### 3. 公式ホームページの開設

・社会に対するYWVとYWVOBの活動をアピールすることは、横浜国立大学としても大切なことである。

・OB会の双方向連絡にも役に立つ。（OB山行参加申し込みや各種照会、掲示板による会員同士の情報交換等）

・現役のホームページと連結も図る。

・プライバシーの侵害などの HP のセキュリティに十分配慮して開設する。

#### 4. 記念行事

- 記念登山
- ・丹沢（一泊(中川ハイツ)日帰り可)、翌日記念登山
  - ・苗名小屋拠点の記念行事（山小屋 40 周年）、登山＋記念植樹
  - ・海外トレッキング：ヒマラヤ、台湾玉山、アメリカなど
  - ・清掃登山、道標やベンチを寄贈、小屋付近にモニュメントを建立

### Ⅲ. 記念事業の遂行

50 周年事業実行委員会を形成して実行する。

2007 年 4 月 1 日より 1 年間に実行。

## YWV50周年記念事業アンケートへの回答集計表（回答者 37 名）

(2006 年 7 月 28 日現在)

### 1. 50 周年記念行事について

- (1) 記念行事として式典・祝賀会を 2007 年 5・6 月頃に、横浜地区で行う計画でおります。これについてお尋ねします。式次第に盛り込むべき企画のご提案またはご意見があればご教示下さい。

回答 弘明寺 (1 件)

- (2) 式典に表彰があった方がよいと考えられますか？

いいえ (16)                      はい (3)

- (3) 式典での配布物として希望される物に○をして下さい。

会員名簿 (14)                      記念誌 (本 CD DVD) (23)

記念品 (4) (具体例＝ 山行用アクセサリ・バッチ・スカイライン復刻本・盾)

- (4) 祝賀会として「酒樽鏡割り、乾杯、楽器演奏、昔はやったスタンツ、裸踊り、山の歌合唱」等々が考えられますが、盛り込むべき企画のご提案またはご意見があればご教示下さい。

回答 乾杯 (8)                      楽器演奏 (2)                      合唱 (15)

提案 各期の紹介、 現役時代の写真の展示やスライド上映

- (5) 次に式典、祝賀会終了後に各期の同窓会を開催して 50 周年を祝うと言う企画についてお尋ねします。

貴方の期についてお答え下さい。

集まれると思う (4) 別の日に開催した方がよい (2) その他、提案 なし

- (6) 50 周年を契機に何期かの連合同窓会の集いを行ってはどうという意見がありますが、貴方の期ではどうでしょうか？

回答 1 件 シニア OB、式典後に 2 次会を行えば自然に連合が出来る。

- (7) 50 周年記念行事として現役・OB 合同の記念山行を 2007 年 9 月頃に行う計画があります。場所としては、他人に迷惑とならないマイナーな低い山で日帰りで行う案と、山小屋苗名小屋に泊まって周辺の山で行う案とが出ています。これについてお尋ねします。

50 周年記念登山として、現役と OB が一緒に登る山行として、ふさわしい場所がありましたら提案をお願いします。

丹沢 (8)                      山小屋 (10)                      大山 (2)                      箱根 (2)                      杓子岳

マイナー低山

(8) 記念山行の時にモニュメントを作りますか？

作らなくて良い (7) 山小屋近くに植樹かモニュメント (4)  
ベンチを寄贈 清掃登山 道標

(9) それとは別の規模の大きい記念登山、記念トレッキングの企画についてはどうでしょうか？

私にプランがある。ご提案：笹倉氏+松尾氏 アメリカトレッキング  
国内のプランに参加したい (5)

海外トレッキングに参加してみたい：韓国 シルクロード 台湾玉山 (2)  
ヒマラヤ (2) スイスアルプス (1)

(10) 以上に挙げました 50 周年記念行事として何かご提案の行事がありましたら、ご提案下さい。

現役の不足装備を寄贈する (1) 苗名小屋で植樹祭をする (2)

## 2. 部史編纂事業について

50 周年を機会にこれまで行われた部活動および OB 会活動を集約整理して、正式記録として残すこと、公式ワンダリングに通し番号を付け一覧表に統合したデジタル記録化することが現在進行中です。現役の部室に眠っている各種記録を掘り起こし、更に個人が所蔵している記録を回収して部史として纏めるには絶好の機会です。部の現状を考えると、いまこそこれらの記録を後世に残す最後のチャンスと言えます。

(1) 50 周年記念誌の発行についてお尋ねします。

記念誌はどんな内容を希望しますか (複数回答願います)

50 年の総括 (24) 公式ワンダリング記録 (20) 遭難報告 (14)

山小屋活動報告 (14) OB 会活動報告 (17) 各世代のトピックス (18)

会員の自分史 (4) 自由投稿 (13)

提案項目= 全会員に一行書いてもらう。 会員の興味深い体験談

(2) 記念誌に投稿願えますか

佐藤① (私とワンゲル) 山本⑩ 綾部⑧ (ワンゲルから得たもの)

植松⑯ (家族、自身の中のワンゲル) 笛木⑱ 鈴木⑨ 武藤⑳

投稿者を推薦する：吉野② (シニア月例) 小口⑭

(3) 部史編纂事業にご協力頂けますか

その他 武藤⑳ デジタル化に協力

## 3. YWVOB 会のホームページについてお尋ねします。

(1) ホームページをご覧になりましたか

見た (29) 見ていない (7) その他：外部にも公開して欲しい (1)

(2) ホームページには各期のページが設けられています。貴方の期のページが開設されていますか？

されている：1~12・14~16・18・20・21・28・(29)・34・36

されていない：13・17・19・22~27・30~33・35・37~50

以上

# ■ 第16回OB山行報告 (檜洞丸)

OB 山行委員長 小野 (34 期)

〔日 程〕 2006年5月13日（土）

〔参加者〕 吉野[2]、谷上[4]、山本[10]、榎本[12]、小野[34]

（計5名・敬称略・[ ]内数字は期）

5月13日は天気予報どおり（予報よりも悪く）朝から雨でした。16回目のOB山行は、YWVのホームグラウンド丹沢の檜洞丸登山を予定し、10名が参加をご希望されましたが、体調不良や天候の影響で一人減り二人減り……。当日西丹沢自然教室前に集まったのは5名でした。

これは中止にしたほうがいいのかなど思っていると、山本さんが颯爽と雨具を着始めました。今日のコースは現役時代から実に30年振り、絶対に登るつもりで千葉県佐倉市のご自宅から駆けつけたとのこと。その迫力に押されて残りの4人も雨の中登る支度を始めました。心が決まれば早いもの。色とりどりの雨具を着たゴレンジャーの誕生です。

9時過ぎには元気に歩き始めていました。自然教室の番犬（とても人なつっこい）が見送ってくれました。



檜洞丸山頂 ゴレンジャー

頂上までの標高差は1000m以上、登り甲斐があります。雨の中展望も無く黙々と歩くのですが、木々の緑から鋭気をもらいました。新緑の時期を過ぎ濃くなり始めた緑は、雨に濡れて一層つややかに美しく見えました。時々びっくりするほど大きな木にも出会いました。

ツツジ新道という名のコースで期待していたのですが、花の時期には少し早かったようです。それでも所々緑の中に薄紅色の花を見つけ、宝探しのように楽しみました。山頂近くではまだ山桜も咲いていました。クサリと階段の続く急登を進み12時15分檜洞丸の頂に到着しました。中央に小さな祠のある広い山頂ですが、この日は人影もほとんど無く、私たちも雨と寒さ



サクラの木の下で 山バカ5人

の中急いで昼食をとりました。「やっぱりこんな日に登るのは山バカだね」と笑いながら。

下山は石棚山から箒沢へのコースを予定していたのですが、犬越路経由で用木沢に下りるコースを行きたいと意見がまとまり、急遽変更しました。後者のほうがコースタイムも長いのに、本当に山バカです。でも下りはじめて40分位した所で、きれいな花（コイワザクラというそうです）が咲いていて得した気分になりました。

れ

マメザクラの木の下で記念撮影をし、1ヶ月遅れ

のお花見を楽しみました。犬越路までの道はあまり人が通らないようで、倒木があつたり幻想的な風景が見られました。しっとりとした良いコースでした。

ぐるりと一周した形で自然教室に戻った時は 16 時を過ぎていました。休憩中もほとんど座らず、本当に良く歩きました。丹沢の大きさを改めて感じました。こんな天候でも山歩きができて嬉しかった。雨の日には雨の日の美しさがあります・・・というのは雨女の遠吠えでしょうか。中川温泉で疲れた体を癒し帰路につきました。心地よい疲労でした。



コイワザクラ

## ■ 第17回OB山行ご案内（瑞牆山）

OB 山行委員長 小野（34 期）

次回の OB 山行は、日本百名山の一つ 瑞牆山に登る予定です。巨岩・奇岩の多い変化に富んだコースと雄大な展望を、一緒に楽しみましょう。多くの方のご参加をお待ちしております。



〔日 程〕 2006 年 9 月 9 日（土）

〔行 先〕 瑞牆山（2,230.2m）

〔地 図〕 昭文社山と高原地図「26 金峰山・甲武信 奥秩父」

〔集 合〕 JR 蕨崎駅 9 時 00 分

※ マイカーでお越しいただける方はお申し込みの際その旨ご連絡ください。

〔交 通〕 中央本線 スーパーあずさ 1 号 新宿駅 7:00～蕨崎駅 8:37

〔行 程〕 蕨崎駅＝（マイカー分乗、1 台は小川山林道終点に置き、他は瑞牆山荘へ）＝  
＝瑞牆山荘（10:00 頃）——富士見平小屋——瑞牆山——不動滝——小川山林道  
終点（16:00 頃） [歩程約 4 時間 40 分]

〔参加費〕 500 円（写真代等）

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

〔温 泉〕 増富の湯（700 円）、明野ふるさと太陽館（700 円）等あり。

下山後ご希望の方はご用意を。

〔申込み〕 参加ご希望の方は下記のいずれかにご連絡ください。

ドタ参、ドタキャン OK です。

6期の近況報告です。

秋山：雪解けも進み、足首くらいまでしかもぐらなくなってきましたので、最近の朝の散歩は、近くの公園の中で犬を走り回らせて、楽しんでます。これまで2回、エゾリスを見ましたが、エゾリスの方が先に気付いて、樹に駆け上り、枝の上から見下ろしていることにわが愛犬は気が付きません。これまでは、鳴声しか聞くことの出来なかったふくろうにも、近くの原始林で、ようやく出会うことが出来ました。洞に来たときには、1日中、じっとしていて、折り良く訪れた人たちを楽しませてくれますので、そのサービス精神に感心しています。妻や娘にも見せることが出来、そのかわいらしさにしばらくは見とれていました。近くの観察センターの説明員の人の話では、1日に3匹、1年で1,000匹程のねずみを食べるようですから、よく、それだけのねずみを見付けられるものだと、こちらにも感心させられました。

江角：行政書士業務にも大分上達しつつあり、どうやら行政書士初段ぐらいにはなったようです。しかし我が将棋四段に比べるとまだまだ見劣りする感は否めません。さて、先日大学ゼミのOB会に出席したところですが、我が青春のキャンパスライフを追憶してエッセイをWritingいたしました。また、この夏の予定は、檜山流吟道会の「納涼吟道会」、合気道本部道場日曜稽古クラスの「暑気払い」、埼玉県行政書士会研修旅行での棋戦で通算6回目の優勝狙い、など目白押しと言ったところであります。

岡田（旧姓岡崎）：目も耳も年齢相応に衰えてきたけれど口数だけは一向に減らず、周りから煙たがられて、いじわる婆さん街道驀進中といったところです。

岡田：船舶に国際条約を守らせるための政府間機関で未だ働かされています。（国際機関なので「天上がり」です。日本では、隣国の万景峰号のポートステートコントロールで人口に膾炙されましたね。）海の日の日連休には、豪雨の中を西穂（独標）と焼岳に行ってきました。山小屋は相変わらず鰯缶状態。とてもグローバルスタンダードには程遠いなー。

近藤：近況報告といってもあまり変わり映えもしませんが、卒業して6期は丁度満40年になりました。相変わらず会社の歯車です。そろそろ自分の遊びに徹したいと思うのですが、中々諸事情がそれを許さないのが現実であります。でも、今年は月例の出席率を少しは向上させたいと意気込んでおります。以上 近況報告でした。

桜井（旧姓宮城）：学生時代ワングルの方々には大変お世話になりました。私にとってワングルでの体験は貴重な財産になっています。卒業後は神奈川県に就職し2004年に無事60歳の停年を迎えました。この間結婚し、1人の夫と2人の子供と5人の孫がいます。現在は自由気ままな生活を送り、ゴルフ、登山、ウォーキング、旅行等体力とお金が続く限り楽しもうと考えています。今後もワングルの月例ワンダリング



にも積極的に参加したいと思いますのでよろしくお願いします。

菅谷：ご存知、長期闘病中。山の空気を吸いたいなァ。旅に病んで夢は枯野・・・ではなく緑の絨毯につつまれて駆け巡れる日を目指している。

永井（旧姓山本）：横浜市の初任者研修指導教員つまり初めて先生になった人に教える先生の仕事をしている私は、今とっても忙しいのです。毎日、帰りは9時になってしまい、それから夕飯を食べると、もう仕事をする意欲はなくなります。学校では、給食を食べている10分間以外は、ほとんど立っているか歩いています。土日は、パソコンに向かって、委員会への報告書づくりで、何時間も座っています。歩数の記録をとっていますが、平日は1万4.5千、土日は4千程度です。

蓮尾：ベトナムのハノイにおります。NPO という団体に会社生活を卒業後入った、言わば新米です。私は今年で63歳になりますが、この年で単身者くらしは慣れない食事を毎晩作らされて、結構大変です。

小生のNPOの仕事はベトナムの盲人の為の、言わばコンピューターライゼーションの手助けの様なもので、我がNPOが手がけて3年目の仕事であります。私はベトナムで一人だけで、言わばベトナム人たちの中で、数少ない英語を解する人との会話を通じて、外務省資金を投入してのコンピューターライゼーションの手助けを行っており、毎日ベトナム人たちと通訳を通して喧々諤々と話し合っていると言うより喧嘩をしている様な毎日です。盲人とコンピューターと言うと全く違った世界と思われる方が多いと思いますが、最近では盲人しか読めない点字を使っての啓蒙活動が盛んで、ベトナムでもやっとベトナムの国語に合わせたJAWSのベトナム語版が出来たので、それを早速導入して、会議議事録などを作って見ようと思っています。

この年になってのひとり暮らしも捨てたものでは有りません。皆さんも機会が有ったら一度ハノイに来て見ませんか。結構良いものですよ。

原 隆：毎日、95歳になる母親の世話（食事作り、買い物、洗濯の後作業等）を主に、ある時は読書、又ある時はカメラを片手に写真撮影と平凡な日々を送っています。

古荘：定年を過ぎて3年目に入りましたが、アルバイトが軽度発達障害児の指導で、在職時と同じためか、ずっと続いているような感じです。シーリハムテリアという犬と、漢字のナンクロにはまっています。

松本（旧姓長谷部）：再任用で中学校の音楽教師を週2日半やっています。後の日はピアノと格闘しコーラスグループで大声を出して日頃のストレスを発散させています。月例の山行きが楽しみです。花の咲く山を特に希望します。

## ■ 故 7 期八島明氏を偲んで

18年6月8日、7期の八島明氏が逝去されました。八島氏はシニアの集いや月例登山に積極的に参加され、7期を代表するワンゲルOBの1人でありました。また3年前からはYWVOB会の監査役として活躍されておりました。ここに謹んで哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈り致します。

なお、八島監査役の後任について第3回OB会役員会で話し合わせ、残存任期06年9月末までの仮監査役（商法の規定を準用）に7期 服部七郎殿（経済67年卒）が就任されることとなりました。

### 八島君 追悼文

平成18年6月8日、八島 明君が逝った。

すい臓ガンとの一年間の壮絶な闘病生活のあとだった。末期ガンの宣告を受けてからびったり一年を経過したその日の深夜、家族が一時帰宅した深夜に、一人で息を引き取った。几帳面な彼らしくまるで正確に測ったかのように。

多分ちょうど一年が経ったことを思い出して自分で旅立つことを決めたんだろう。昭和18年に生まれ、そして平成18年に旅立った。

家族は、奥さんと就職したお嬢さんに大学4年のご子息。二人とも未だ若く、子供達の結婚式に出られずに逝くのが心残りだったかもしれない。

自宅での最後の療養中には、死後のことについて事細かにワープロで遺言を残し、またザックやシャツなどの山支度と山や仲間の写真を枕元に揃え、再び山歩きが出来る日を夢みながら逝った。

最後の山歩きは2005年4月の「守屋山」だった。

シニアの集い10回参加表彰状や月例山行の様々な表彰状と山の写真が、思い出と一緒に納棺された。

最後の山歩きとなった守屋山にて

初めて逢ったときの彼は、浪人生活の疲れからなのか青白い顔をしていて、やたら背が高くひよろひよろして弱々しい感じだった。事実新人の頃の山行では、同期の中ではいつも一番最初にバテルくちだった。一年の高山夏合宿でも一緒だった。身体は大きい物静かで、いつもどっしり構えていて物事に動じることなく、一番最後に全体をまとめるような意見を例の低音でぼっそつと言ひ、いつの間にか全体をサポートしてくれる頼りがいのある大人のような存在だった。

ワンゲルの先輩が何人もいる三菱油化（現三菱化学）に就職し、四日市勤務を含め最後までグループ会社の現役役員のまま逝った。

卒業してからは、体重も増えて頼もしくどっしりとした貫禄だったが、物静かで几帳面な所と頼まれると嫌と言えない性格は変わらず、よく仲間の世話役を買って出てくれた。シニアの集いの7期の世話役に始まり、最後はOB会の役員（監査役）を長く務めてくれた。

抗がん剤治療で頑張った一年間。昨年夏の「励ます7期会」には奥さんと一緒に、秋の奥多摩での「シニアの集い」にも、暮れの横浜八景島での「7期会」にも出てこられるほど頑張った。

### 服部（7期）



「八島君、お疲れさまでした。最後の一年間はワングル魂をもって精神的にも肉体的にも本当によく頑張ってくれた。また一つ、人間の生き様を見せてもらったよ。ありがとう。もう、ゆっくりしてくれ。むこうに行ったら下村や加納和子さんにもよろしく。それに同時期をワングルで共に過ごした跡部先輩や岡本主将、それに8期の飯村君や森君、9期の正継君や天笠君たちもいるし、そっちでもワングルのOB会支部の事務局長を頼むよ。では、さようなら。

合掌

(2006年7月28日)

### 故八島君を悼む

白神 (7期)

八島君

君の突然の訃報に接し、愕然としてしまった。あまりにも早すぎるその死ではないか。僕はうかつにも君が元気を回復し、僕たちの会合に顔を出してくれるものとばかり思っていた。こうして追悼文を作成していると君の太い元気な声が耳のそばで聞こえてくるような気がしてくる。

思い出すと大学3年の春休み、僕が群馬県での平地ワンデルングを企画し、誰か同期に参加してもらいたいと思っていた時、君は積極的にメンバーに加わり、話下手な僕に代わってパーティの下級生の話相手になってくれた。

また同じ年の初夏、八ヶ岳登山で先行する下村君をリーダーとするパーティを、八島君と僕の二人が後発で追いかけて入山したことがあった。登山の途中で黄昏がせまり、少々疲れて不安になってきた時、君はいつもと変わらぬ調子で僕に話しかけてくれた。おかげで二人は、無事下村君達の待つテント場まで何とか辿り着いたことがあった。

僕達二人は、また経済史ゼミの同期生でもあった。同期の仲間は皆酒飲みでよく飲み屋に集まり、君は大きな声で自説を論じたものだ。また南アルプスの桃の木鉱泉に同期生皆で旅行したことも今では懐かしい思い出だ。君はゼミの会合には常に顔を見せ、僕達同期生にとっては、ゼミの世話役であり、先輩、後輩との唯一人のつながり役ともなってくれていた。僕達ゼミ同期生は、君に頼るところが多かったように思う。

こうしていると思えばつきないが、今はただ君のご冥福を祈るのみだ。安らかに眠りたまえ。八島君。



マツムシソウ

## ■ 自由投稿（縄文杉に会いに行く）

久保木（7期）

2006年4月24日から3泊4日のツアーで屋久島の宮之浦岳と縄文杉登山に行ってきました。私が縄文杉に秘かなあこがれを持ったのは、屋久島がまだ世界遺産に登録される以前のことでした。‘90年頃、友人が縄文杉の根元に、立っている写真を見せてくれたのです。大きな縄文杉の前に小さく、小さく写っている友人。私はその木の太さ、形状、野生的な姿に圧倒されました。私も行ってみたいと強く思いました。でも、その頃の私は、ふだん30分も歩いたことのない身体で、友人に聞いたコースを10時間も歩ききる自信は全くありませんでした。

その後、長く離れていたワングルの山行きに参加するチャンスを得て、私の足も少しずつ鍛えられてきました。そして、体力に少し自信を持ち出した頃、このツアーの企画を目にしたのです。

あの大地にドシーンと根を張って、山中奥深く鎮座している縄文杉に一人で会いたい。

今まで、前穂高も至仏山も天狗岳も鳳凰三山もいつもいつも七期の仲間に励まされての山行きてきた。でも、縄文杉だけには一人で会いに行きたい。私は迷いなく、そのツアーに一人参加で申し込みました。参加者15名のうち、一人参加が9名もいました。

ツアーの2日目は九州の最高峰、1,935mの宮之浦岳登山です。朝4時起床で、バスで淀川登山口へ。まだ薄暗い中、5時半に出発しました。15km、約11時間の行程です。

ホテルで朝と昼のお弁当を渡されましたが、山岳ツアーガイドから、「朝食、昼食の時間は特別に取らないので、適宜10分から15分の休憩時間に食事を摂るように、お腹が空きすぎると食事が入らなくなるので、注意するように、また、行程が長いので、ストレッチも時々入れるように」との指示。これは3日目の縄文杉登山でも同様でした。こんな指示をされたのは初めての経験で、最初から緊張しました。休憩時間はそれこそ大忙しでした。お弁当があまり美味しくなく、食べられなかったのが、持っていった6個入りのプチアンパンが手軽で、貴重なエネルギー源となりました。

1年に9000ミリも雨が降る淀川（ヨドゴウ）の清流は青く、透明で登山道は苔やシダに覆われて、「もののけ姫」の舞台を連想させました。途中、岩の表面が凍っているところがあり、慎重に、慎重に歩きました。ロープで大きな岩を下るときは怖くて、七期の仲間が一緒だった

ら、こんなとき助けてくれるだろうな、と思いながら、心細さと不安の中、懸命に頑張りました。

森林限界を越えると、いろいろな形をした花崗岩の巨石があちこちに見られます。はげしい雨が花崗岩を風化させ、不思議な形を作り出したのです。

11時半ごろ、ついに頂上に着きました。中国の黄砂の影響で、眺望はあまりよくなかったけれど、世界遺産の山を体感できた達成感でいっぱいになりました。

帰りはピストンで同じ道を帰り、ホテルに着いたのは6時半。少し足に痛みがあり、痛み止めを塗って、休みました。



3日目はいよいよあこがれの縄文杉に会いに行きます。4時起床。昨日より標高差は少ないものの、歩行距離は22km、「足よ、頑張ってくれ」と祈りながら、ホテルを出ました。

初めは大正時代にできたというトロッコ軌道を延々と歩きます。道の脇の小さな白いふわとしたハイノキ、遠くから見たら桜と見間違ふほどの可憐なサクラツツジ、黄色い花のヒカゲツツジなどが目を楽しませてくれます。

軌道の途中には三代杉があります。約3500年ほど前に誕生した初代が2000年で倒れ、その倒木に2代目、さらに3代目が今、樹齢500年を経過しているといいます。天然更新というのだそうです。命を引き継いでいく悠久の時間のすごさに容易には想像が追いつきません。

そこを過ぎるとトロッコ軌道も終わり、傾斜のきつい大株歩道になります。根がむき出しに縦横に走り、うっそうとして、湿った苔も多く、足をとられそうで歩きにくい道が続きます。

大株歩道には固有名詞のついた巨木がたくさんあります。翁杉、ウィルソン株、大王杉、夫婦杉など、どれも2000年、3000年の巨樹です。中でも一番印象に残ったのはウィルソン株です。大きな切り株のお化けのようです。中は空洞になっていて、200人も入れる広さです。清水も湧いていて、祠もあって、上を見るとぽっかり空が見えます。周囲には樹齢何百年の杉が林立していて、静寂な雰囲気をかもし出しています。縄文杉を訪れる人は必ずここで休みを取るといいます。

歩き始めて5時間、ようやく縄文杉と会うことができます。だがしかし、今は私の友人のように縄文杉に触れることはできないのです。根の保護のため根元への立ち入りを制限して、近くに展望台を設けてあるのです。

縄文杉の手前でツアーガイドが「下を見たまま歩き、展望台の階段を登って、ガイドが肩に手をふれたところで、目を上げなさい」と言います。演出過剰と思いましたが、そのとおりにしました。

ぱっと顔を上げたとき、縄文杉は静かに私を迎え入れてくれました。まさに屋久島の主です。神が宿っているようです。ずんぐりむっくりの姿で、巨大な川の流れ、命のうねりを感じさせます。

ずっと会いたかった縄文杉にやっと会えたのです。努力してやっと手に入れた私の宝物。形のない宝物。ずーっとそこにいたかったけれど、帰らなければなりません。ツアーコンダクターに一枚の写真を撮ってもらって、展望台を降りました。

展望台の下にはヤクシカがつぶらな瞳でじっとこちらを見ていました。目が合っただけしばらく見詰め合っていました。そうだ写真をとったとき、目をそらせて林の中に消えていきました。

縄文杉の近くには水場が何箇所かあります。とても美味しい軟水でした。

一番近い水場でペットボトル2本をいっぱいにしました。お酒の飲めない主人にはこれをお土産にしましょう。

その夜は足の痛みもなく、翌日バスで島内一周観光を楽しみました。そ27日、夜10時ごろ千葉に帰り着き、私の初めての一人山行は終わりました。

後で七期の仲間からは「まるで“初めてののおつかい”みたいだね。」と冷やかされました。



## ■ OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野（2期）

会報 33号に同封いたしました払込取扱票は、2007年度年会費、前納会費、寄付等をお振込いただく用紙です。取扱いは郵便局で、払込手数料は窓口100円、ATM60円です。大きい局のATMは夜間、土日も取り扱っております。お早目にお振込下さい。

- ・年会費：2,000円（06年10月から07年9月までの2007年度の年会費）  
（宛名ラベルに「今年度会費は納入済」という表示がある人は納入不要です）
- ・前納会費：10,000円（2007年度～2012年度の6年間の年会費前納分）
- ・寄付金：（一般、小屋）どちらかを○で囲んで
- ・最新名簿代金：500円（郵送希望者のみ）

払込取扱票を紛失した場合は、郵便局で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込ください。

## ■ OB会報の発送方法とOB会費未納者

総務委員長  
会計幹事

OB会報の発送方法については、2005年2月発行の会報No.28にてお知らせいたしましたとおり、OB会費未納会員へは年一回の総会案内号以外の会報は発送しないこととなりました。今回の会報No.33は総会案内号ですので全員に発送いたします。

下記会報発送方法をご理解いただき、OB会費納入にご協力いただきますよう、あらためてお願いいたします。

### 《 会 報 の 発 送 方 法 》

1. 過去5年間会費納入の実績が把握できない会員（入会后10年以下の会員を除く）については、総会案内号を除き会報の発送を停止します。
  2. 電子会報を入手できるので会報の郵送は不要である旨申告いただいたOB会員の方には、総会案内号を除き会報の発送を停止させていただきます。
- ※ いずれの場合も、会費振込用紙及び総会出欠ハガキを同封する号（総会案内号）は、会員全員を対象に発送します。

過去5年（2002—2006年）OB会費未納の方

06.8.15 現在

37 期以下の若手会員は除いています。



赤岳・阿弥陀岳

**YWVOB 会会報第 33 号**

発 行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日：2006 年 9 月 1 日

発行責任者：嘉納 (1)

編集責任者：編集委員長 下村(10)

編 集：編集委員 松本(8)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。